

令和4年度 学校評価の結果を受けての考察と今後の対応について

長崎県立鶴南特別支援学校五島分校

		1 教育活動		2 教育環境		3 開かれた学校		4 総合評価	
		R4	R3	R4	R3	R4	R3	R4	R3
全学部	保護者	3.6	3.6	3.6↑	3.5	3.7↑	3.6	3.8↑	3.7
	教職員	3.6↑	3.4	3.5	3.5	3.8↑	3.6	3.7↑	3.6
小中学部	保護者	3.7△	3.8	3.8	3.8	3.7△	3.8	3.8△	4
	教職員	3.7↑	3.5	3.6↑	3.5	3.8↑	3.7	3.8	3.8
高等部	保護者	3.5	3.5	3.5↑	3.4	3.6↑	3.4	3.8↑	3.5
	教職員	3.5↑	3.4	3.4	3.4	3.6↑	3.5	3.6↑	3.2

※4段階評価 ↑：向上 △：下降

1 教育活動について

【全学部】

保護者については、「教育活動」の領域の平均が3.6Pと昨年と同値の評価であったが、教職員においては昨年度を0.2P(3.4→3.6)上回っており、小中学部・高等部共に、教職員の評価が昨年度より向上している。保護者に関しては、小中学部で0.1P(3.8→3.7)下がってはいるが、毎年高い水準で推移しており、高評価を得ていることが分かる。

項目別では、保護者については全項目とも3.6以上と高い評価を得ており、昨年度と比べて評価が下がった項目も18項目中2項目のみ(3.8→3.7、3.7→3.6)と非常に高い評価である。教職員においては、前述のとおり昨年度に比べ評価が0.2P向上しているが、評価が高い項目と低い項目の二極化が目立つ。「7 教職員は、専門性をもって指導に取り組んでいる(3.1→3.3)」「10 児童生徒への指導が一人一人に工夫され、授業を分かりやすくしている(3.2→3.4)」は、共に昨年度に比べ0.2P向上してはいるが、全体から見ると、やや評価が低い。この2項目は教育活動の中でも、特に大事な評価項目なので、向上したことについては評価しつつ、教職員として今後増々の研鑽が必要であるとする。

今後も保護者と連携をとりながら、児童生徒が主体的に活動し、生き生きと学校生活を送れるように学習活動や学校行事に取り組んでいきたい。

【小中学部】

保護者(3.8→3.7)、教職員(3.5→3.7)と、どちらも高い評価ではあるが、特に教職員の評価平均が0.2P向上したこと、18項目中3.4の項目が2項目あるものの、いずれも昨年度より0.2P向上していること、また、昨年度に比べて、すべての項目が向上していることなどについては評価できる。中でも「6 教職員は自分の個性を發揮し、明るく活気のある学校づくりを行っている(3.4→3.7)」「10 児童生徒への指導が一人一人に工夫され、授業を分かりやすくしている(3.3→3.6)」の項目については、共に昨年度比0.3P向上している点は評価できる。また、「7 教職員は、専門性をもって指導に取り組んでいる(3.2→3.4)」は、昨年度に比べ0.2P向上しているが、他の項目に比べると評価はやや低めである。教職員としての専門性とは何か、具体的に何をイメージして評価をしているのかを探りながら、改善策や方策を考えていきたい。保護者については昨年度より0.1P下がってはいるが(3.8→3.7)、全項目とも3.6以上で、平均も3.7と非常に高い評価を得ている。強いて言えば、0.2P下がった項目が「16 学校は、児童生徒の成長に合わせ将来を見通した進路指導をしている(3.8→3.6)」「17 児童生徒の将来の夢や願いに向けた情報を提供している(3.8→

3.6)」の2項目で、評価は高いものの、いずれも進路指導等に関する項目であることから、小中学部段階から、進路指導や進路に関する情報提供などを計画的に進める必要があると考えられる。

【高等部】

昨年度比、保護者（3.5→3.5）、教職員（3.4→3.5）で、教職員は0.1Pと僅かではあるが向上している。

また、全19項目のうち、保護者、教職員共に16項目において昨年度を上回っており、喜ばしい評価になった。ただし保護者の評価の中で、「7 教職員は専門性をもって指導に取り組んでいる（3.7→3.4）」については、昨年度に比べて0.3P下がっている。教職員の評価は（3.1→3.1）と昨年度と比べて変わらないものの、ここ数年は低い評価で推移している。この評価については保護者、教職員共に共通していること、教職員については数年続けて低い評価であることから、各自が自己分析し、改善に向けた取組を考えていく必要がある。また、昨年度の評価が低く、高等部の喫緊の課題であった「5：児童生徒が主体的に活動しようとする活動内容や学校行事を行っている」（3.3→3.4）、「6：教職員は自分の個性を発揮し、明るく活気のある学校づくりを行っている」（2.9→3.2）、「10：児童生徒への指導が一人一人に工夫され、授業を分かりやすくしている」（3.1→3.3）の3項目については、他の項目に比べると数値は低いものの0.1P～0.3P向上している。少しずつではあるが改善がみられる。

2 教育環境について

【全学部】

保護者（3.5→3.6）、教職員（3.5→3.5）で、保護者については0.1P向上した。保護者については、全4項目中2項目が昨年度と同値で、「21 児童生徒の学習目標に従った教育環境が整えてあり、活用している（3.5→3.7）」が0.2P、「22 危険箇所などへの配慮が十分なされ安全に配慮している（3.5→3.6）」が0.1P向上した。教職員については、全4項目中2項目「20 校舎内外の施設が整備され、清潔な学校づくりに努めている（3.6→3.4）」、「23 潤いのある環境美化のために、掲示物が整備されていたり、花などがあつたりする（3.4→3.3）」が前年度より下がっているが、「22 危険箇所などへの配慮が十分なされ安全に配慮している（3.5→3.7）」が0.2P向上している。

【小中学部】

保護者（3.8→3.8）は前年と同値で、教職員（3.5→3.6）は0.1P向上した。保護者の評価は昨年と同値で高い評価であり、教職員も十分に高評価である。項目別では、保護者からは全項目で高い評価であったが、教職員の「21：児童生徒の学習目標に従った教育環境が整えてあり、活用している（3.4）」は昨年度と同値で、職員の中には教室環境や備品等が他校に比べて十分ではないという思いが強いのだと思う、しかし、与えられた環境で教育実践をするしかないため、工夫や安全面の担保などできることから行い、今後もより良い教育環境の整備に取り組んでいきたいと考える。

【高等部】

保護者（3.4→3.5）、教職員（3.4→3.4）と、保護者は0.1P向上し、教職員は僅かに昨年度と同値であった。保護者の評価は4項目中2項目は向上し、2項目は同値であった。しかし、教職員については4項目中2項目が下降し、特に「23 潤いのある環境美化のために、掲示物が整備されていたり、花などがあつたりする（3.1→3.0）」と昨年度に比べ更に0.1P下降し、全項目で最も低い評価になっている。本校は限られた学習空間ではあるが、この項目については毎年低い評価であることを踏まえ、どうしたら評価の

改善につながるか、何ができるかを検証していくことが喫緊の課題である。

3 開かれた学校について

全学部では、保護者（3.6→3.7）、教職員（3.6→3.8）となり、保護者評価、教職員評価共に高評価であった。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響でPTA活動が思うようにできなかつたり、地域の方々の学校行事への参加を制限したりすることもあったが、可能な範囲で工夫をしながら学校行事に取り組んできたことを理解していただけた結果ではないだろうか。今後も感染症対策をしっかりと行い、適切な状況判断をしながら、できる範囲で活動を行ったり、保護者への情報提供や地域とのつながりを大切にしたりするなど、開かれた学校づくりに取り組んでいきたい。

【小中学部】

保護者（3.8→3.7）、教職員（3.7→3.8）で、保護者評価は昨年度に比べて0.1P下がり、教職員は0.1P向上したが、いずれも高評価で推移している。小学部・中学部ともに学級通信を欠かさず出したり、ホームページを積極的に更新したりするなど、保護者や地域へ広く情報発信をしている結果であるとする。

【高等部】

保護者（3.4→3.6）、教職員（3.5→3.6）で、保護者、教職員ともに昨年度より向上した。保護者の項目別では、3項目中2項目が昨年度より向上しており、特に「25 PTA活動に参加しやすいように配慮している（3.3→3.5）」は昨年より0.2P向上している。また、「26 学校の情報をホームページや各種便りなどで伝えている（3.6→3.6）」は昨年度と同値であったが、引き続き高い評価を得ている。これは小中学部同様、積極的な情報発信を心掛けている結果ではないだろうか。

4 総合評価

保護者については小中学部（4→3.8）、高等部（3.5→3.8）、教職員は小中学部（3.8→3.8）、高等部（3.2→3.6）、全校平均は昨年度と比較すると、保護者（3.7→3.8）、教職員（3.6→3.7）で、保護者、教職員ともに昨年度より評価が向上し、共に高い評価であった。「27 子供にとって望ましい学校である」の項目を高く評価されていることは学校として喜ばしいことであり、引き続き魅力ある学校づくりを継続していきたい。

5 全体総括

学部別で見ると、小中学部の保護者評価については、昨年度に比べて全26項目のうち0.1P~0.2P程度下降している項目が多かったが、全26項目のうち約半分近くが3.8以上という非常に高い評価結果であり、毎年高い数値で推移している。また、高等部に関しては、小中学部に比べて昨年度の評価が低かったこともあるが、昨年度に比べてほとんどの項目で評価が上がっている。教職員に関しては、昨年度は保護者評価に比べて低かったが、今年度は小中高ともに軒並み高い評価結果が出た。特に昨年度低かった項目、例えば「6 教職員は自分の個性を発揮し、明るく活気のある学校づくりを行っている」「7 教職員は専門性をもって指導に取り組んでいる」「10 児童生徒への指導が一人一人に工夫され、授業を分かりやすくしている」という教育活動に関する3項目の向上は、非常に喜ばしい結果である。これらの項目は教職員にとって非常に重要な項目であり、専門性を問われる項目でもあることから、次年度以降も評価が下降することがないように心掛けていきたいと考える。

また、反省として、「2」「1」の評価を付けた場合は、その理由や改善方法を書いてもらうようにしているが、教職員のアンケートの中には「2」という評価を付けたものの、その理由や改善方法(案)が何も書かれてないものがあった。改善していくためには「どういう点が課題と考えるのか」「どうすれば良い方向へ進むことができるのか」を学校として考えていく必要があるので、低評価だけを示されても、そう評価する理由が分からなければ改善する方向性がふれてしまう。次年度はこのようなことがないように、再度共通理解をする必要がある。昨年度も考察の中で書いたが、改めて、学校運営は所属する職員一人一人が関わっているものであり、「自分が付けた学校評価は、その人自身の評価」と考えることもできる。「～できていない」「～してほしい」という一方的な要求ではなく、「どうしたら～できるのか」「自分なら～した方がよいと思う」という建設的な意見や考え方をもつこと、そして職員一人一人が鶴南特別支援学校五島分校の一員であり、学校運営に参画しているという意識をもつことが大事である。今後も、職員間や保護者との連携を大切にしながら日々の指導・支援に努め、保護者の期待に応えられるような、より良い学校づくりに取り組んでいきたい。